

2022年3月期 第1四半期決算 連結業績概要

2021年8月5日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
佐瀬 克也

決算サマリー

2022年3月期第1四半期 業績概要

- 売上高は838億円。スマートフォンなどの通信機器向けを中心に、前四半期比6%増収。
- 営業利益は151億円(同45%増)。値下がり抑制や為替影響により、期初の想定を上回った。
- 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも、四半期ベースで過去最高を更新。

2022年3月期 業績予想

- 期初に発表した上期、通期の業績予想を上方修正。
- 通期業績予想は、売上高3,330億円(前期比11%増)、営業利益550億円(同35%増)と予想。

2022年3月期第1四半期 業績概要

売上高は前期第4四半期から6%増の838億円、
営業利益は同45%増の151億円で、増収増益となりました。
営業利益は、値下がりの抑制や円安の影響により、期初の想定を上回りました。

その結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の
全てにおいて、四半期の過去最高を更新しました。

2022年3月期 業績予想

上期の業績が期初の想定を上回ることが見込まれるため、
業績予想を上方修正いたしました。
通期の売上高は前期から11%増の3,330億円を、
営業利益は前期比35%増の550億円を計画しています。
また、営業利益率は16.5%となる見通しです。

連結業績概要(前四半期比)

百万円	2021年3月期 第4四半期		2022年3月期 第1四半期		増減	
売上高	79,471	100.0%	83,836	100.0%	4,365	5.5%
営業利益	10,440	13.1%	15,147	18.1%	4,706	45.1%
経常利益	11,641	14.6%	15,174	18.1%	3,532	30.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	8,789	11.1%	12,969	15.5%	4,179	47.5%
対米ドル期中平均レート	104.31円		109.00円		4.69円円安	
為替変動による影響額	売上高 +26億円、営業利益 +18億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,141		3,138		△2	△0.1%
設備投資額	14,541		7,595		△6,945	△47.8%
減価償却費	7,820		7,294		△526	△6.7%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

3

2022年3月期第1四半期の業績は

売上高838億円、営業利益151億円、経常利益152億円、
親会社株主に帰属する当期純利益130億円となりました。

期中平均の為替レートは1米ドル109.00円、前四半期に対して4.69円円安でした。

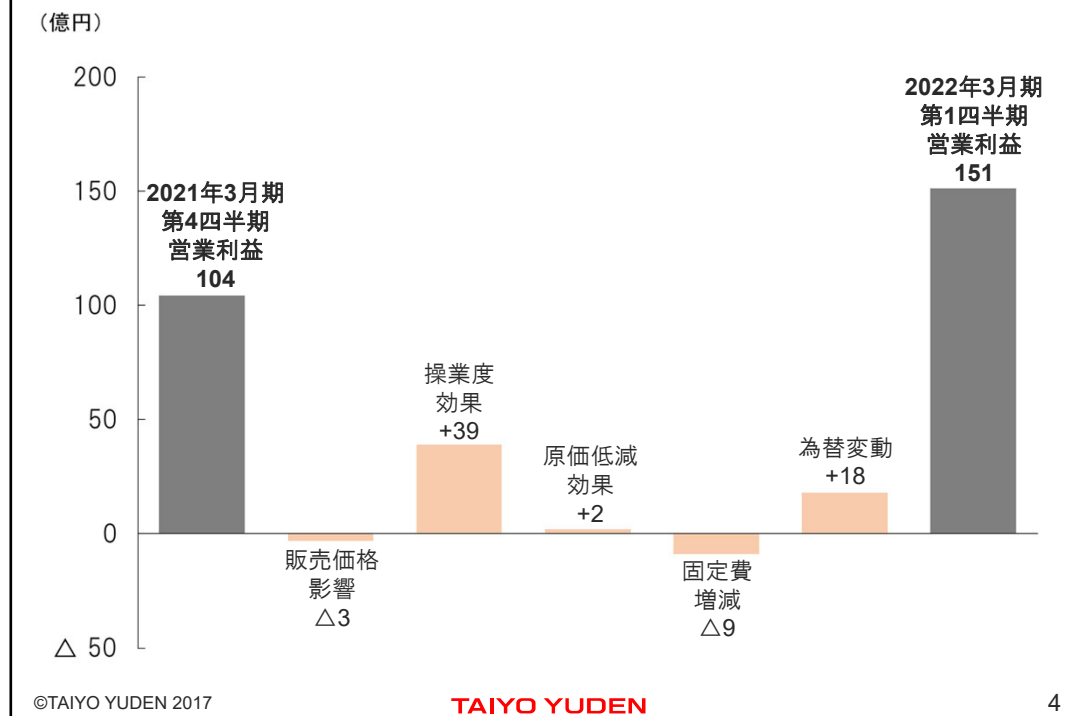
これにより、売上高に対しプラス26億円、
営業利益に対してプラス18億円の影響がありました。

研究開発費は、前四半期とほぼ同額の31億円でした。

設備投資額は、前四半期から69億円減少し、76億円となりました。

減価償却費は73億円で、前四半期に対して5億円減少しました。

営業利益増減要因(前四半期比)



営業利益の増益要因として、操業度効果が39億円ありました。
操業度効果には、販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減などが含まれています。

6月末の全社の棚卸資産は、為替や利益に影響がない部分を除いた実態ベースで前期3月末より36億円増加しました。
このほか、円安による為替影響18億円、原価低減効果2億円が増益に寄与しました。

一方、減益要因として3億円の販売価格影響がありましたが、値下がりのペースは通常に比べて緩やかに推移しています。
また、固定費は人件費を中心に9億円増加しました。

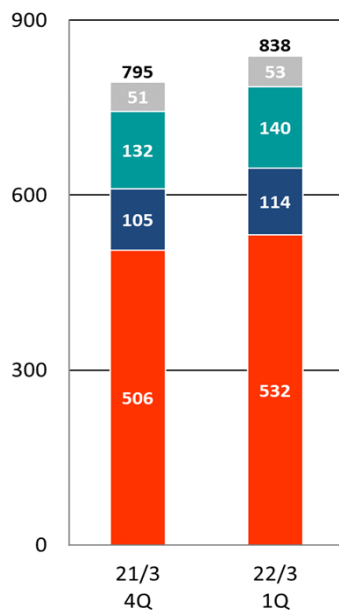
これらの結果、営業利益は第4四半期から47億円増加し、151億円となりました。

製品別売上高(前四半期比)

百万円	2021年3月期 第4四半期		2022年3月期 第1四半期		増減	
コンデンサ	50,630	63.7%	53,209	63.5%	2,578	5.1%
インダクタ	10,501	13.2%	11,386	13.6%	884	8.4%
複合デバイス	13,213	16.6%	13,977	16.7%	764	5.8%
その他	5,125	6.5%	5,263	6.3%	137	2.7%
合計	79,471	100.0%	83,836	100.0%	4,365	5.5%

製品別売上高(前四半期比)

(億円)



■ コンデンサ (前四半期比+5.1%)

スマートフォンなどの通信機器向けが増加。情報機器も好調。

■ インダクタ (前四半期比+8.4%)

タブレット端末などの情報機器向け、通信機器向け、情報インフラ・産業機器向けが増加。

■ 複合デバイス (前四半期比+5.8%)

スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)が増加。

■ その他 (前四半期比+2.7%)

自動車向けのアルミ電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

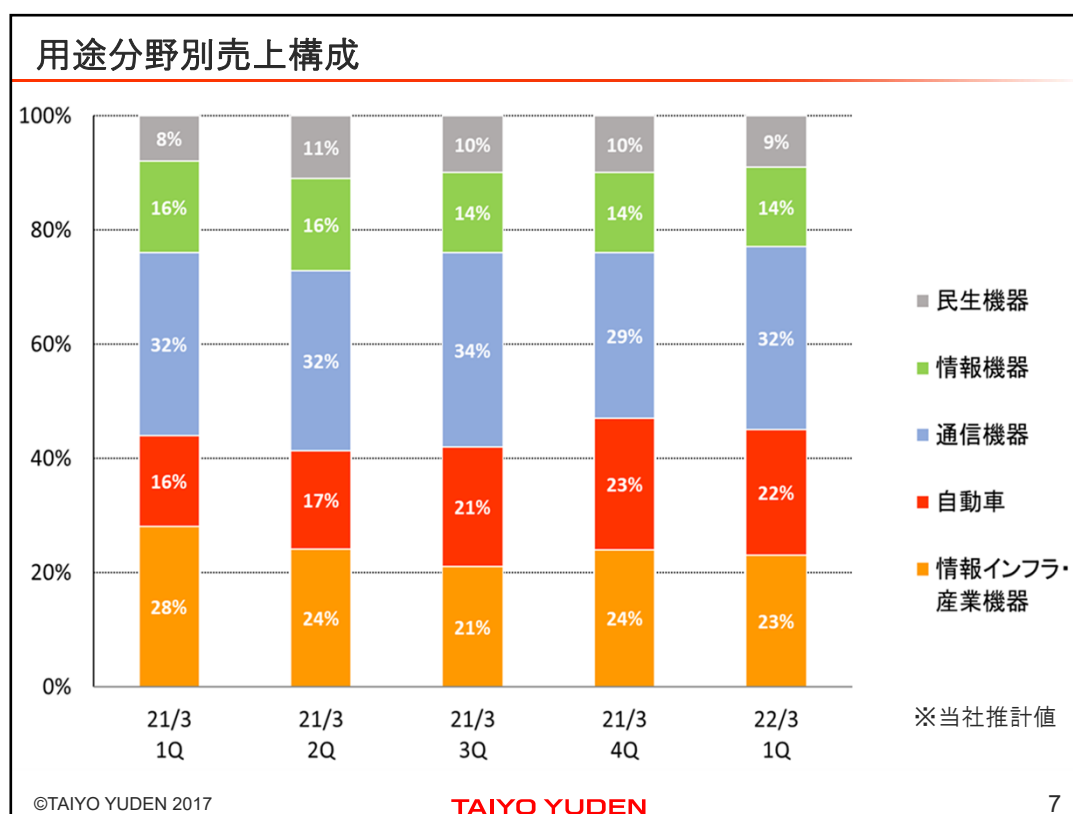
6

コンデンサの売上高は、前四半期比5%増の532億円でした。
スマートフォンなどの通信機器向けや情報機器向けが増加しました。

インダクタの売上高は、前四半期比8%増の114億円でした。
タブレット端末などの情報機器向け、通信機器向け、情報インフラ・産業機器向けが増加しました。

複合デバイスの売上高は、前四半期比6%増の140億円でした。
スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)が増加しました。
なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は65-70%でした。

その他の売上高は、前四半期比3%増の53億円となりました。
子会社であるエルナーのアルミ電解コンデンサが、
自動車向けに売上を伸ばしています。



用途分野別の売上構成比は、スマートフォンなどの通信機器向けが前四半期から3ポイント増加し、32%となりました。

通信機器以外の構成比は前四半期から大きな変化はなく、情報インフラ・産業機器向けが23%、自動車向けが22%、情報機器向けが14%、民生機器向けが9%でした。

2022年3月期 連結業績予想

2022年3月期 連結業績予想(前回予想比)

百万円	2022年3月期 前回予想			2022年3月期 今回予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	170,000	158,000	328,000	175,000	158,000	333,000
営業利益	25,000	22,000	47,000	33,000	22,000	55,000
経常利益	23,500	21,500	45,000	33,000	21,500	54,500
親会社株主に 帰属する当期純利益	15,500	14,500	30,000	25,000	14,500	39,500
対米ドル期中平均レート	105.00円	105.00円	105.00円	109.00円	105.00円	107.00円
研究開発費	—	—	13,000	—	—	13,000
設備投資額	—	—	50,000	—	—	50,000
減価償却費	—	—	31,500	—	—	31,500

・ 5月に発表した上期、通期の業績予想を上方修正(下期は見直しを行っていない)。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

第1四半期の実績と第2四半期の見通しに基づき、
期初に発表した上期の業績予想を上方修正しました。
5G普及に伴うスマートフォンの高機能化、自動車の電装化などにより、
電子部品の需要は高水準で推移する見込みです。
また、操業度効果や円安による為替影響によって、
想定を上回る営業利益が見込まれます。

これら上期の上方修正を反映して、通期の業績予想も修正いたしました。
売上高は3,330億円、営業利益550億円、経常利益545億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は395億円と予想しています。

なお、下期につきましては、新型コロナウイルス感染症や
エレクトロニクス市場の先行きを見通すことが困難であるため、
期初計画の見直しを行っておりません。

2022年3月期 連結業績予想(前期比)

百万円	2021年3月期		2022年3月期 予想		増減	
売上高	300,920	100.0%	333,000	100.0%	32,080	10.7%
営業利益	40,766	13.5%	55,000	16.5%	14,234	34.9%
経常利益	41,247	13.7%	54,500	16.4%	13,253	32.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益	28,615	9.5%	39,500	11.9%	10,885	38.0%
対米ドル期中平均レート	105.97円		107.00円		1.03円円安	
研究開発費	12,550		13,000		450	3.6%
設備投資額	49,699		50,000		301	0.6%
減価償却費	29,256		31,500		2,244	7.7%

・5月に発表した上期、通期の業績予想を上方修正(下期は見直しを行っていない)。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

10

前期比では、売上高が11%の増収となり、
各段階利益は30%以上の増益となる見込みです。

中期的な電子部品の需要は、5Gの普及や自動車の電装化などに伴って
拡大が続いていくという見方に変化はありません。
需要増に対応するため、最先端商品、高信頼性商品の生産・販売拡大に
引き続き注力していきます。

2022年3月期 製品別売上高予想(前回予想比)

百万円	2022年3月期 前回予想			2022年3月期 今回予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
コンデンサ	111,000	107,000	218,000	114,500	107,000	221,500
インダクタ	21,500	20,500	42,000	24,000	20,500	44,500
複合デバイス	27,500	21,500	49,000	26,000	21,500	47,500
その他	10,000	9,000	19,000	10,500	9,000	19,500
合計	170,000	158,000	328,000	175,000	158,000	333,000

製品別売上高の前回予想からの変化は、このスライドの通りです。
コンデンサ、インダクタ、その他は上方修正いたしましたが、
複合デバイスにつきましては、スマートフォンの生産調整による影響が
第2四半期に見込まれることから、上期の売上予想をやや引き下げました。

なお第2四半期の各製品の売上高は、第1四半期に対して、
コンデンサが15%増、インダクタが11%増、複合デバイスが14%減、
その他はほぼ同水準であると予想しています。
全社合計では、9%の増収となる想定です。

2022年3月期 製品別売上高予想(前期比)

百万円	2021年3月期		2022年3月期 予想		増減	
コンデンサ	195,198	64.9%	221,500	66.5%	26,302	13.5%
インダクタ	41,564	13.8%	44,500	13.4%	2,936	7.1%
複合デバイス	46,930	15.6%	47,500	14.3%	570	1.2%
その他	17,227	5.7%	19,500	5.9%	2,273	13.2%
合計	300,920	100.0%	333,000	100.0%	32,080	10.7%

前期比では、コンデンサ14%、インダクタ7%、複合デバイス1%、その他13%の売上増加を見込んでいます。

補足資料

当社の事業活動への影響は軽微

販売・調達

顧客企業やサプライヤの生産動向、各機器の最終需要などを注視。

物流

一部で物流リードタイムの長期化や物流費の上昇などの影響が継続。代替便や代替ルートによる輸送で対応。

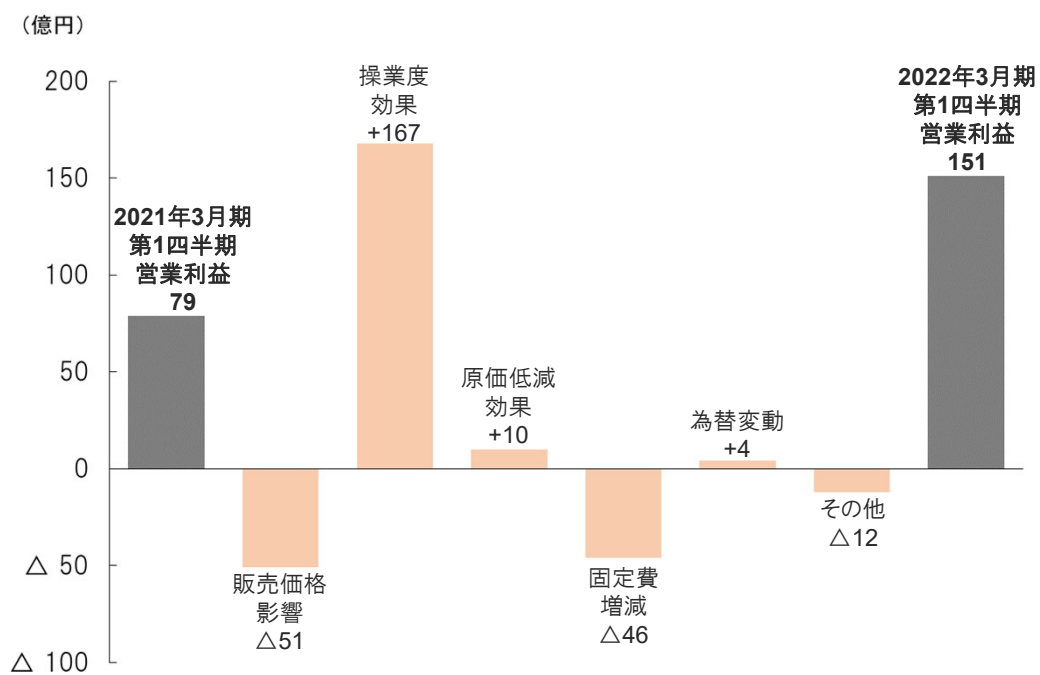
生産

マレーシアでの感染拡大、行政当局による活動制限令により、6月に同国内の生産子会社で稼働が制限された。現在は、ほぼ通常稼働に回復。

連結業績概要(前年同期比)

百万円	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期		増減	
売上高	60,493	100.0%	83,836	100.0%	23,343	38.6%
営業利益	7,923	13.1%	15,147	18.1%	7,223	91.2%
経常利益	7,371	12.2%	15,174	18.1%	7,802	105.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	4,541	7.5%	12,969	15.5%	8,427	185.6%
対米ドル期中平均レート	107.61円		109.00円		1.39円円安	
為替変動による影響額	売上高 +20億円、営業利益 +4億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	2,988		3,138		150	5.0%
設備投資額	17,886		7,595		△10,290	△57.5%
減価償却費	6,599		7,294		694	10.5%

営業利益増減要因(前年同期比)

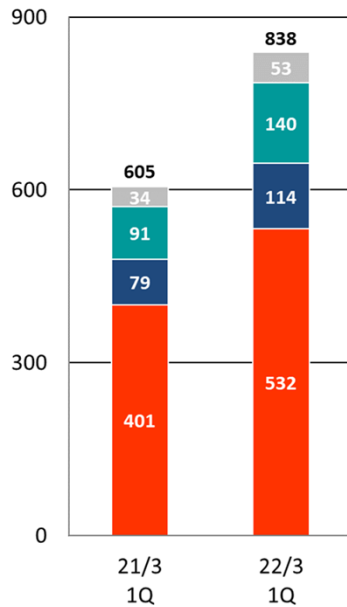


製品別売上高(前年同期比)

百万円	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期		増減	
コンデンサ	40,075	66.2%	53,209	63.5%	13,133	32.8%
インダクタ	7,928	13.1%	11,386	13.6%	3,457	43.6%
複合デバイス	9,075	15.0%	13,977	16.7%	4,901	54.0%
その他	3,413	5.6%	5,263	6.3%	1,849	54.2%
合計	60,493	100.0%	83,836	100.0%	23,343	38.6%

製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比+32.8%)

自動車向けが大きく増加。民生機器向け、情報機器向け、通信機器向けも増加。

■ **インダクタ** (前年同期比+43.6%)

すべての機器向けで売上が増加。特に情報機器向け、自動車向けが大幅増。

■ **複合デバイス** (前年同期比+54.0%)

通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールが増加。

■ **その他** (前年同期比+54.2%)

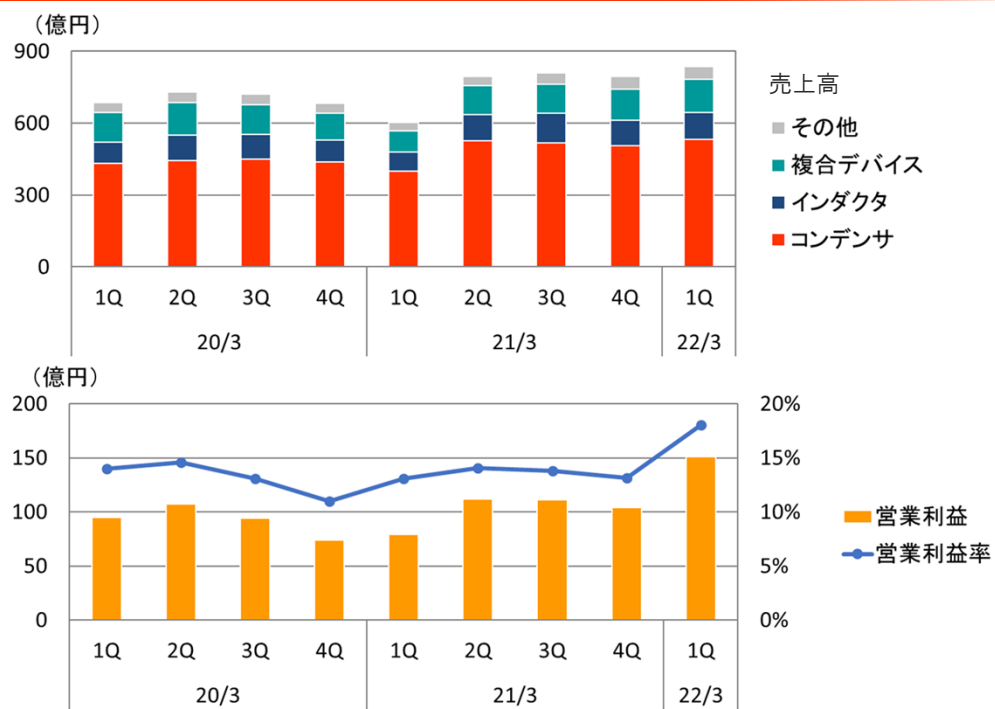
自動車向けアルミ電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

連結業績推移(四半期)

百万円	2020年3月期				2021年3月期				2022年 3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	68,635	73,272	72,187	68,233	60,493	79,728	81,226	79,471	83,836
コンデンサ	43,338	44,473	44,907	43,738	40,075	52,596	51,895	50,630	53,209
インダクタ	8,633	10,742	10,303	9,090	7,928	10,903	12,230	10,501	11,386
複合デバイス	12,523	13,436	12,621	11,226	9,075	12,330	12,311	13,213	13,977
その他	4,139	4,620	4,354	4,178	3,413	3,899	4,788	5,125	5,263
営業利益	9,595	10,703	9,446	7,431	7,923	11,203	11,199	10,440	15,147
経常利益	8,846	10,330	9,152	6,835	7,371	10,812	11,422	11,641	15,174
親会社株主に 帰属する当期純利益	7,151	8,180	4,666	△1,975	4,541	6,900	8,383	8,789	12,969
対米ドル期中平均レート	110.95円	107.58円	108.17円	109.54円	107.61円	106.82円	105.15円	104.31円	109.00円

連結業績推移(四半期)

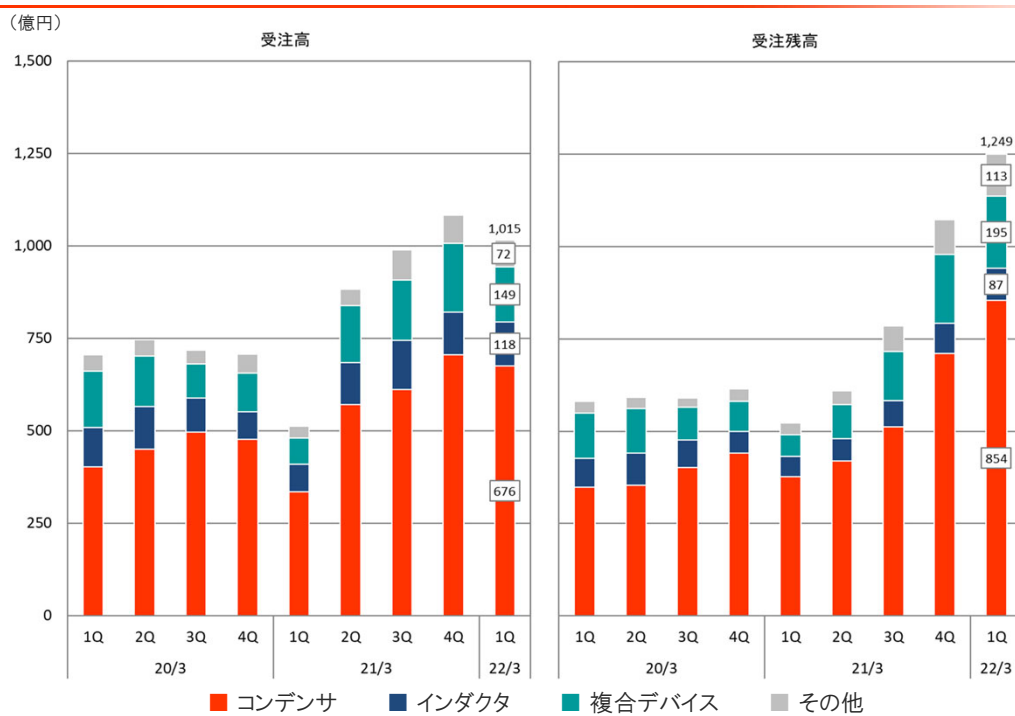


©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

20

受注高・受注残高推移(四半期)



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

当資料に記載されている、当社（太陽誘電株式会社、および当社グループ）に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN

©TAIYO YUDEN 2017